

## 優 秀 賞

今だから気づいたこと

筑西市立下館中学校

二年 金 澤 花 帆

コロナ禍の今、マスクや消毒液等の品切れ品薄で不便な上、外出自粛要請を受け不自由な生活を強いられています。そんな中、何気なく過ごしていた普通の生活がどんなに幸せな事かを改めて感じました。状況は違うけれど、二〇一一年に起きた東日本大震災で断水となり、水が自由に使えなかった時の事を思い出しました。テレビで、津波の様子を見てその水の勢いに恐怖を覚えました。

水は私達が生きるためには欠かせない自然の恵みで、ありがたいものですが、自然ゆえに時として災害をもたらす恐ろしいものです。

断水を経験したことで、母からよく言われる言葉があります。「ほら、無駄使い」「もったいない」と、

つい水を出しっぱなしにしていると横から注意されます。どうせ使うからと面倒がつて出しっぱなしにしているけれど、必要な時に使えなかった事を思うと、確かにもったいないことをしています。

日本は世界平均の約二倍の雨が降るといふ水に恵まれた国ですが、水不足になる可能性もあるそうです。

調べてみると、毎年ゲリラ豪雨等で土砂災害や都市型洪水が発生しているため、降る雨の量が増えたと錯覚しがちですが、実際には局地的・短時間に集中して雨が降るために雨量が増えたと思ってしまうだけで、ゆっくりと確実に年間降水量は減少しつつあるとのことでした。

もともと日本列島は山地が多く、山に降った雨は大陸と比べてあつという間に海へと流れてしまうという地形的なデメリットがあり、特に梅雨や台風の時節に降った雨の大部分は洪水となって一気に川を下り、利用されないまま海に流出してしまうそうです。

近年は、「雨はなるべく早く排出する」という考

え方で街づくり・家造りが行われているらしく、降水量は減少し地中に染み込む前に海に流れ出てしまうので、結果として使える水の量が減っていくという事です。

私は、水不足の心配を身近に感じられていません。でも、汚染された水源を使用する人々の間に病気や死をもたらし、毎年三〇〇万〜四〇〇万人が下痢、コレラ等の水に由来する病気で死亡しているという記事も目にし、その数の多さに驚きました。

実際に水不足で色々な問題があることも忘れてはいけないことなのです。

ひと言で水と言っても雨が降れば水が無限にあるのではなく、地球温暖化により異常気象等、あらゆる事が関係して水の恩恵を受けられることを考えると、一人一人の意識がとても大切だという事に気づかされます。

例えば、地球温暖化の対策としてごみの分別を徹底する、電化製品の使用方法を見直す等、できることは沢山あります。

また、水を大切にすることでは歯みがきの

時にコップを使う、野菜を洗う時にはボウルに水をためて洗う、出す水の量をいつもより少し減らすだけでも十分な節水につながります。

水が自由に使えなくなった不便さを時間が経つにつれて感じにくくなっていくけれど、あたり前にあるものはいつまで永続してあるとは保障されていないものと記憶しておかないと思えます。

まずは、私自身もちょっとした水の無駄使いをなくしていこうと思います。自分さえよければ良いという考えを捨て、一人一人の心がけで未来を守っていきたいです。

災害はいつ何処でどのような形で起こるか分かりません。不便・不自由になったことを忘れず経験を活かし、限りある自然とうまく向き合っていかなければならないと思いました。